

近畿地方整備局 滋賀国道事務所	配布日 平成18年11月27日 (月)
資料配布	

件 名	滋賀国道雪害対策訓練
-----	------------

概 要	この度、冬期の道路交通確保を目視して、滋賀県、滋賀県警、中日本高速道路（株）等の関係機関の協力を得て、これまでの対応確認型の訓練ではなより実践的な訓練方法を用いた雪害対策訓練を実施します。
-----	--

取 り 扱 い (同時配布)	滋賀県政記者クラブ
-------------------	-----------

問い合わせ	近畿地方整備局 滋賀国道事務所 TEL 077-523-1741 (代表) 副所長 (管理担当) 伊勢 達男 管理第二課 中村、西口
-------	---

件 名

実践的な雪害対策訓練の実施について

概 要

滋賀国道事務所では、これまで冬期の雪害による道路交通の混乱を多数経験しており、雪害対策として関係各機関との連携体制の確立に努めているところであります。

この度、冬期の道路交通の確保を目指して、滋賀県、滋賀県警、中日本高速道路（株）等の関係各機関の協力を得て、これまでの対応確認型の訓練ではなく、より実践的な訓練方法を用いた雪害対策訓練を実施します。

- ・ 訓練実施予定日時 平成 18 年 11 月 29 日 8:30～15:00
- ・ 訓練実施場所 滋賀国道事務所をはじめとする各事務所および各被害想定現場
- ・ 訓練の方式 ロールプレイング+借り物競走方式型訓練

1. 訓練の目的

滋賀国道事務所は、平成8年1月31日～2月4日の福井・滋賀県境周辺での豪雪による高速道路の通行止めが発生し、長時間にわたり一般国道が渋滞したことを受けて、「福井・滋賀県境周辺の冬期交通確保に関する対策連絡会」を発足し、冬期の交通障害の対策を検討・実施しているところである。

近年では、平成13年1月の豪雪、「平成18年豪雪」と命名された平成17年12月～平成18年2月に発生した大雪（43年ぶり）があり、大規模な交通混乱が発生している。

以上のことから、滋賀国道事務所では、冬期の道路交通の確保を目指して、事務所における雪害対策の確実かつ円滑な対応を習得・確認を主目的とした雪害対策訓練を実施するものである。

なお、雪害対策訓練は、可能な限り実践的な訓練を実施することにより、多くの課題を抽出し、今後の対策に役立てられるものとする。

1) 訓練のねらい

- ①職員の対応確認と習得
- ②関係機関との情報連携の確認
- ③体制判断と体制構築に要する時間
- ④現場巡回パトロールと対策部との情報伝達の確認
- ⑤除雪車両配置の確認
- ⑥各種課題の抽出

2. 訓練の実施方針

訓練の実施方針としては、実際に冬期において起こりうる様々な障害を再現し、冬期に起こりうる最悪の状況に近い想定を設定して、可能な限り実践的な訓練を実施する。

冬期における交通混乱の主要因としては、以下に挙げるものが考えられる。

- ①気象 路面温度、凍結、積雪等（時間経過情報を提供）
- ②事故 スリップ事故等
（北陸自動車道1箇所、一般国道8号1箇所、161号1箇所、1号1箇所）
- ③災害 雪崩（倒木等）一般国道8号1箇所
- ④各所の交通渋滞

3. 訓練等の実施日

●訓練の実施 平成18年11月29日 8:30～15:00

訓練の終了は遅くとも15:00とする。

4. 訓練の実施方法

雪害対策訓練の実施方法は、対策部に対しては「ロールプレイング方式」によりコントロールし、巡回パトロール等の現地対応者および関係機関の訓練参加者に対しては「借り物競争方式」による設定情報提示を行うものとする。

ロールプレイング方式の訓練では基本的に、対策部の対応訓練に限定されることから、訓練開始時の気象状況の設定、想定被害の現地状況等を設定するには、借り物競争方式の訓練手法を加えた訓練が良いと考えられることから、被害現場への動態を組み込んだ訓練として、

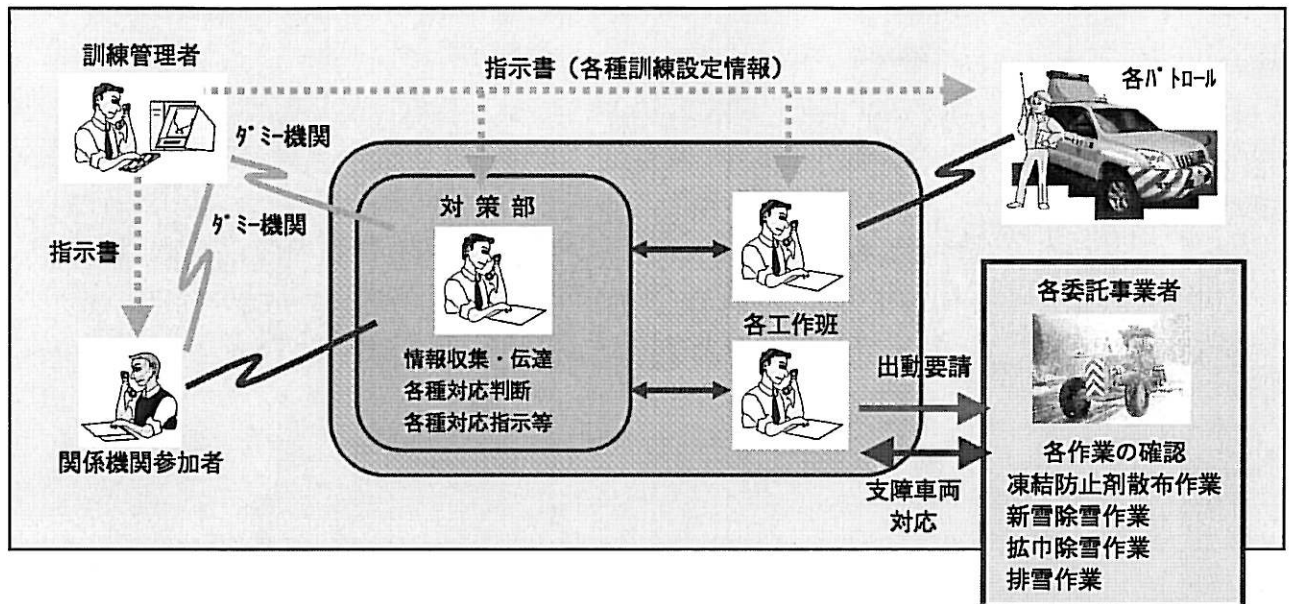
ロールプレイング方式

借り物競争方式

ロールプレイング方式の訓練（対策部対応）と借り物競争方式の訓練（現地調査・関係機関）とを組み合わせた訓練方式を採用するものとした。

対策部の対応をロールプレイング方式の訓練で構成し、訓練管理者（コントローラー）から様々な付与カード（条件提示等）を出し、訓練参加者（プレイヤー）は与えられる様々な条件下での対応を演じるものとする。

訓練開始時の設定や被害情報の収集（現地調査）、関係機関への訓練条件や被害情報等は借り物競争方式を活用し、被害現場の状況、各所の制約条件等を密封した複数の指示書（開封時間表示）を提供する方法を用いるものとする。



ロールプレイング方式の訓練とは

「役割演技法」とも言われる訓練技法の一つであり、この訓練の設定場面は、例えば災害対策本部など危機管理の対策調整部門である。

災害時と同じような環境（具体的、数値的な被害状況や関係機関など）、すなわち実相に近い状況を設定し、その中で、訓練参加者には災害対策本部長や対策班長、広報担当などの特定の役割が与えられる。訓練参加者（プレイヤー）はその役を通じて災害状況を疑似体験する訓練方式である。

借り物競争方式の訓練とは

学校の運動会でを行う「借り物競争」の手法を訓練に採り入れたものである。

訓練開始段階をはじめ、各被害現場、職員の動態ポイント等において、指示書という封書を用意し、様々な制約や状況を設定することにより、訓練参加者が予測できない状況を創出することで、より実践的な訓練環境を作り出す方法である。